

## 機能強化計画の要約

### 1. 基本方針

- (1) 今後とも地域社会との共存・共栄を基本理念に裾野金融に徹しつつ、地域の中小企業並びに住民のためにあまねく金融仲介機能・金融サービスを提供する一方、強靱で活力ある信用金庫として地域社会に磐石な基盤を築く。
- (2) 地域社会のリーダーとして、地域の中小企業や住民等とともに活力ある地域社会を作り上げるべく「使命共同体」の中核となって地域の再生・活性化に向けて努力する。
- (3) これらを推進するため 収益力の強化、 経営管理体制（リスク管理・法令遵守体制）の再構築、 総合力の発揮を戦略目標とし経営の健全性を図る。

### 2. アクションプログラムに基づく個別項目の計画

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
・ 中小企業金融の再生に向けた取組み					
1. 創業・新事業支援機能等の強化					
(1) 業種別担当者の配置等融資審査態勢の強化	支店毎の審査体制（2名体制で各々8店舗、7店舗を分担）	審査部増強 財務諸表を基本とした審査態勢構築 新規先を含めた重要取引先（業況フォローアップ対象先等）に対する業況把握の充実	取引先の財務登録作業の促進及び内容検証 審査部増強 業況フォローアップ先選定基準見直し 重要取引先の業況把握のための会議設置（仮称レビュー会議）	重要取引先の業況把握のためのレビュー会議開催	
(3) 産学官とのネットワークの構築・活用や日本政策投資銀行との連携。「産業クラスターサポート金融会議」への参画	北部九州地区産業クラスターサポート金融会議へ参画	北部九州地区産業クラスターサポート金融会議へ参画	H15/6北部九州地区産業クラスターサポート金融会議出席 H15/7北部九州地区産業クラスターサポート金融会議出席 北部九州地区産業クラスターサポート金融会議出席（下期）	北部九州地区産業クラスターサポート金融会議出席（上期） 北部九州地区産業クラスターサポート金融会議出席（下期）	北部九州地区産業クラスター「九州シリコン・クラスター会議」、「九州地域環境・リサイクル交流プラザ」が想定している企業規模は取引先とはなりにくい対象企業が出て来た場合積極的に取り組む。
(4) ベンチャー企業向け業務に係る、日本政策投資銀行、中小企業金融公庫、商工組合中央金庫等との情報共有、協調投融资等連携強化	法人成り設立手続き受託 既往取引先の個別案件での中小企業金融公庫との協調融資	法人成り先を中心に育成支援に注力する 公的金融機関との連携強化に加え信金キャピタル㈱の有効活用	中小企業金融公庫、商工組合中央金庫等との情報交換、連携強化等のための会合を持つ	中小企業金融公庫、商工組合中央金庫等との情報交換、連携強化等のための会合を持つ	
(5) 中小企業支援センターの活用	経営改善指導 佐賀県地域産業支援センターの活用事例なし	経営改善指導の強化 佐賀県地域産業支援センターとの連携検討	佐賀県地域産業支援センターとの連携及び情報収集のための会合を持つ	佐賀県地域産業支援センターとの連携及び情報収集のための会合を持つ	

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
2.取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化					
(1)経営情報やビジネス・マッチング情報を提供する仕組みの整備	西支店の取引先を中心に異業種交流会（昭62年発足、朋友会）を組織	西支店異業種交流会の全店展開の可能性検討 しんきんふれ愛ネット（全信協）、ITを活用した全国ネットワーク（信金中金）の活用検討	全店へ異業種交流会ニーズ調査	ニーズ調査結果を受け異業種交流会の拡大、再組織検討 業界ベースのツールの活用検討	
(3)要注意先債権等の健全債権化及び不良債権の新規発生防止のための体制整備強化並びに実績公表	経営改善指導 業況フォローアップ対象先の月次業況把握	経営改善指導対象先指定の拡大 要注意先を含めた重要取引先（業況フォローアップ対象先等）に対する業況把握の充実	審査部増強 経営改善指導先の指定拡大、改善指導強化 業況フォローアップ先選定基準見直し 要注意先を含めた重要取引先の業況把握のための会議設置（仮称レビュー会議）	経営改善指導の強化 要注意先を含めた重要取引先のレビュー会議開催 15年度決算ディスクロージャー誌へのランクアップ状況公表	
3.早期事業再生に向けた積極的取組み					
(4)「中小企業再生型信託スキーム」等、RCC信託機能の活用	現在経営改善指導を行っており今後この機能を強化して行きたい	業界のRCCの企業再生機能に関する説明会に出席する等情報収集、勉強を続けていく	業界のRCCの企業再生機能に関する説明会出席	RCC信託機能活用に備え情報収集、勉強を行なう	経営改善指導先はいずれも自力再建中で他金融機関とも良好な関係にあるとおもわれることや、それ以外の要注意先、破綻懸念先は当庫単独先も多くRCC信託機能活用が現時点では考えにくい。しかし、将来RCC信託機能活用が取引先再生にあたってスムーズにいくと想定される場合は検討したい。なお、業界のRCCの企業再生機能に関する説明会に出席する等情報収集、勉強は続けていく。
(6)中小企業再生支援協議会への協力とその機能の活用	当庫取引先の持ち込み案件なし 佐賀県中小企業再生支援協議会は立ち上がったばかりで相談件数は少ない模様	佐賀県中小企業再生支援協議会のPRへの協力（パンフレット、ポスターの営業店配付等） 中小企業再生支援協議会の活動状況等の情報収集、将来の活用に備えた勉強	パンフレット、ポスターの営業店配付 中小企業再生支援協議会の活動状況等の情報収集	中小企業再生支援協議会の活動状況等の情報収集	

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
4．新しい中小企業金融への取組みの強化					
(1)ローンレビューの徹底、財務制限条項やスコアリングモデルの活用等。第三者保証の利用のあり方	業況フォローアップ対象先の月次業況把握 財務制限条項やスコアリングモデルは未実施 キャッシュフローを必須記載項目として審査している	業況フォローアップ先選定基準見直し 重要取引先（業況フォローアップ対象先等）に対する業況把握の充実 信用格付導入 第三者保証の運用は限定的とし、財務諸表を重視した審査方法の確立	業況フォローアップ先選定基準見直し 重要取引先の業況把握のための会議設置（仮称レビュー会議）	信用格付導入 重要取引先のレビュー会議開催	スコアリングモデルは信用格付が定着後活用を検討する。財務制限条項は当庫取引先には馴染まず導入しない。
(3)証券化等の取組み	売掛債権担保融資保証制度の利用 特定保証付私募債等他の証券化ニーズは今のところない	売掛債権担保融資保証制度のPR その他の証券化手段の活用を検討する	売掛債権担保融資保証制度に関するパンフレットを店頭配布 その他の証券化ツールは活用 に備えた情報収集等	売掛債権担保融資保証制度に関するパンフレットを店頭配布 その他の証券化ツールは活用 に備えた情報収集等	
(4)財務諸表の精度が相対的に高い中小企業に対する融資プログラムの整備	全ての取引先から決算書、申告書を徴求し、財務登録を行ないその結果を審査プロセスで活用 信用格付導入を準備中	信用格付導入を優先し、財務諸表の精度を検証する		信用格付導入	格付の有効性及びその前提となる財務諸表の精度等の高まり具合を検証しつつ融資プログラムの整備がインセンティブになるか検討する。
(5)信用リスクデータベースの整備・充実及びその活用	信用格付導入に向け財務データの整備中	信用格付の導入 格付に応じた金利体系への移行を検討	長期金利に関し債務者区分、年限に応じた金利体系設定 財務入力及び精度検証 短期金利に債務者区分に応じた金利体系設定	信用格付導入	信用格付導入を優先しその定着を待って信用格付に基づく金利体系設定、信用リスクデータベース（財務、デフォルト、回収の各データ）の整備を検討する。
5．顧客への説明態勢の整備、相談・苦情処理機能の強化					
(1)銀行法等に義務付けられた、貸付契約、保証契約の内容等重要事項に関する債務者への説明態勢の整備	信用金庫取引約定書はH14/9に双方署名方式へ移行 重要事項説明態勢は営業店が独自に対応し、根拠要領、事後検証等の内部規程はない	重要事項説明態勢整備 事後検証の内部管理態勢整備 顧客からの相談苦情処理態勢整備	融資事務取扱要領の改定 検査関連要領の改定 重要事項に関する説明マニュアル整備 苦情・トラブル等処理規程の改定 お客様相談室、ホットラインの整備 部室店長、支店長代理、融資担当者勉強会	部室店長、支店長代理、融資担当者勉強会	

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
(2) 「地域金融円滑化会議」の設置・開催	地域金融円滑化会議（佐賀財務事務所）出席 H15/3に苦情・トラブル等処理 規程を制定し態勢整備を実施	他金融機関の事例も取り入れ つつ現在の態勢の実効化を更に 図る	営業店臨店指導 佐賀県地域金融円滑化会議 （四半期毎） 県内金庫「法務室長会議（貸 し渋り、貸し剥がし対策等）」 （半期毎）	営業店臨店指導 佐賀県地域金融円滑化会議 （四半期毎） 県内金庫「法務室長会議（貸 し渋り、貸し剥がし対策等）」 （半期毎）	
(3) 相談・苦情処理体制の強化	H15/3に苦情・トラブル等処理 規程を制定し態勢整備を実施	営業店臨店指導、階層別指導 を通して態勢を強化する	階層別研修会 営業店臨店指導（四半期毎） 銀行業務検定試験「コンプラ イアンス2級」受験	階層別研修会 営業店臨店指導（四半期毎） 法令遵守担当者会議（四半期 毎）	
6. 進捗状況の公表		取引先、会員、総代にアク ションプログラムの進捗状況を ご理解頂けるためホームページ への掲載、総代会での説明に よって公表する	9月にホームページで機能強化 計画公表及び11月にH15/上期の 進捗状況を公表	6月に総代会及びホームペー ジでH15/下期の進捗状況を公表 11月にホームページでH16/上 期の進捗状況を公表	

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
各金融機関の健全性の確保、収益性の向上等に向けた取組み					
1. 資産査定、信用リスク管理の強化					
(1) 適切な自己査定及び償却・引当の実施	自己査定の正確性及び償却・引当の適切性に問題はないが更に取引先の実態把握、財務分析を高め営業店指導も充実する 関連規程等を更に充実し一層の態勢整備を図る 自己査定、償却・引当の庫内研修を更に充実する 等々の対策を講じる	自己査定の正確性確保のための資料整備（債務者の実態把握、財務データ入力） 部室店長、支店長代理、融資担当者を対象とした勉強会開催	審査部臨店による財務登録作業の促進及び内容検証 部室店長、支店長代理、融資担当者を対象とした勉強会開催	信用格付導入 審査部臨店による財務登録作業の促進及び内容検証 部室店長、支店長代理、融資担当者を対象とした勉強会開催	
(1) 担保評価方法の合理性、処分実績からみた評価精度に係る厳正な検証	平成14年11月不動産担保評価方法の見直しを実施 債務者区分毎の評価基準とはしていないが処分実績に近づける掛目等を採用している	新基準による担保評価作業の定着 担保評価額と処分実績との乖離状況検証	不動産担保再評価作業	担保評価額と処分実績との乖離状況検証 不動産担保再評価作業	
(1) 金融再生法開示債権の保全状況の開示	平成12年3月期から開示している	本決算に加え仮決算に関する金融再生法開示債権の保全状況も開示する	平成14年度決算ディスクロージズ（8月） H15/9期仮決算ディスクロージズ（11月）	平成15年度決算ディスクロージズ（8月） H16/9期仮決算ディスクロージズ（11月）	
2. 収益管理態勢の整備と収益力の向上					
(2) 信用リスクデータの蓄積、債務者区分と統合的な内部格付制度の構築、金利設定のための内部基準の整備等	信用格付導入に向け財務データの整備中 長期金利に関し先行的にH15/6より債務者区分、年限に応じた金利体系を導入	信用格付の導入による自己査定 の充実 信用リスク（格付）に応じた金利体系導入 信用リスク管理の定量化を展望	長期金利に関し債務者区分、年限に応じた金利体系設定 財務入力及び精度検証 短期金利に債務者区分に応じた金利体系設定	信用格付導入	信用格付導入を優先しその定着を待って信用格付に基づく金利体系を導入する。

項 目	現 状	具体的な取組み	スケジュール		備考（計画の詳細）
			15年度	16年度	
3. ガバナンスの強化					
(2) 半期開示の実施	H14/9期より全信協案により次の項目を半期情報開示している 金融再生法ベースによる債権額開示、自己資本比率、預金・貸出金残高、貸出金の業種別内訳、有価証券の時価情報、地域貢献活動&トピックス	引続き分かりやすい半期開示に取り組む	半期情報開示	半期情報開示	
(2) 外部監査の実施対象の拡大等	平成13年度決算から会計監査人（新日本監査法人）による法定監査態勢を整えている	現在の外部監査態勢を継続する	決算監査（4～5月） 本店営業部取引記録監査（8月） 本部取引記録監査（11月） 自己査定結果監査（3月）	決算監査（4～5月） 本店営業部取引記録監査（8月） 本部取引記録監査（11月） 自己査定結果監査（3月）	
(2) 総代の選考基準や選考手続きの透明化、会員・組合員の意見を反映させる仕組み等の整備	総代選任にあたり候補者を店頭に掲示等選考手続きの透明性を確保、総代選考基準はない 総代以外の主だった会員に総代会前に主な議案を説明 総代会の基本的なガバナンス機能は有効に働いている 現ディスクロージャー誌は総代会の仕組み、役割、選考基準等の記載はない	全信協が取りまとめる総代会機能向上策をもとに対応する 総代選考基準の制定 総代会の仕組み等のディスクロージャー誌への掲載 総代の意見を徴し総代氏名のディスクロージャー誌への掲載検討 総代の定年制、重任制限等の検討 会員の意見は総代会へ反映させる方策の検討	全信協案に基づく総代会機能向上策を一般的に検討 総代氏名公表に関する総代会へのヒアリング 15年度決算ディスクロージャー誌作成方針決定 総代選考基準制定	主だった会員への議案説明、その意見を総代会へ紹介する試み ディスクロージャー誌作成 アンケートによる協同組織運営、総代会制度等に対する理解状況把握	
(2) 中央機関が充実を図る個別金融機関に対する経営モニタリング機能等の活用方針		信金中金が分析した決算データ等の有効活用 信金中金の決算分析、ALM支援・有価証券ポートフォリオ分析等の経営相談機能の活用 信金中金との連携強化（アドバイス、情報提供等）			平成14年7月に有価証券ポートフォリオ分析を受けたが、今後も決算分析、ALM支援等の経営相談機能を活用したい。
4. 地域貢献に関する情報開示等					
	定例的に各種地域行事への参加 ロビー・会議室の開放、地域清掃、献血活動 平成14年度決算ディスクロージャー誌に地域貢献イメージ図掲載	全信協「地域貢献ディスクロージャー誌の考え方」を参考にして情報開示を充実させる	地域貢献活動の内容充実、見直し 開示項目や説明方法の再検討	地域貢献活動の内容充実、見直し 開示項目や説明方法の再検討	

### 3. その他関連する取組み

項 目	具 体 的 な 取 組 み
. 中小企業金融の再生に向けた取組み	
1. 創業・新事業支援機能等の強化	
(2) 企業の将来性や技術力を的確に評価できる人材の育成支援業務を目的とした研修の実施	全国信用金庫研修所主催の「目利き力養成講座」への職員派遣 受講者を講師とした庫内勉強会開催 中小企業診断士通信講座受講者の推薦
2. 取引先企業に対する経営相談・支援機能の強化	
(2) コンサルティング業務、M&A業務等の取引先企業への取組み	当庫の体力、取引先ニーズから付随業務としては取り組まないが、将来このようなニーズが出て来た場合信金 <sup>※</sup> 外株等信金中金の機能を活用したい。
(4) 中小企業支援スキルの向上を目的とした研修の実施	全国信用金庫研修所主催の「企業再生支援講座」及び佐賀県による「中小企業再生支援担当者研修」の受講。 受講者を講師とした庫内勉強会開催
3. 早期事業再生に向けた積極的取組み	
(7) 企業再生支援に関する人材(ターンアラウンド・スペシャリスト)の育成を目的とした研修の実施	全信協による企業再生支援スキル向上研修プログラムを受講 受講者を講師とした庫内勉強会開催
. 各金融機関の健全性の確保、収益性の向上等に向けた取組み	
5. 法令等遵守(コンプライアンス)	
行員による横領事件等、金融機関と顧客等とのリレーションシップに基づく信頼関係を阻害するおそれがある問題の発生防止	H15/4に不祥事件規程を改定し不祥事件の定義を明確にした。 不祥事件防止策の基本は庫内規程等の習熟と認識し、勉強会の実施及びそのフォローアップ態勢を築いた。 今後、苦情等に関する顧客から直接連絡出来る態勢構築等を検討している